

Q 11月の町長選挙へ向けての考えは

A 出馬することをいっことで表明する



松浦和子議員

町長

これまで「復興・絆・国見の未来をみんなで作る」ことを念頭に、東日本大震災からの復旧復興や元気活力事業などに全力を挙げて取り組んできた。こういった中、少しずつではあるが、町にも復興・再生の光が見えつつあると私自身も思っており、おそらく町民の皆様方も同じ思いをされているのではないかと考えている。これも町民各般の献身的なさまざまなご支援とご協力のおかげである。改めて敬意と感謝を申し上げます。

問 平成24年11月27日復興への期待を一身に受け太田町政がスタートし、4年を迎える。私たちが元の暮らしを取り戻すべくわが身を惜しむことなく全力投球をいただいている。女性の活躍の場が増え、子どもと高齢者への対応や町の活性化事業に積極的に取り組んでいただい

いることなど、高い評価を受けていると感じている。

任期満了に伴う町長選挙に町発展のため続投を望む声が多く聞かれる。そこで、11月の町長選挙について町長の考えを伺う。

しかしながら、町の東日本大震災からの復

興、再生・まちづくりについては、まだまだ道半ばの部分もある。町としての将来への維持発展には、さまざまな課題を積極的に解決し、前に前に進めていく必要があるものと考えている。

こういった中、6月議会以降、数多くの町民の方々からも町長選2期目の出馬の強い強い要請がある。さらには、8月27日に開催された私の後援会の役員会からも、正式に町長選挙出馬への強い要請があった。

私自身、浅学非才、能力を持ち合わせていないが、こういったさまざまな背景があり、そして議会や町民の皆様方の要請に真摯に応えるため、まさにオール

国見で支えていただくことを前提とし、3か月弱の1期目の期間、全力で町政を執行していくことを誓いながら、11月に実施予定の国見町長選挙に出馬させていただきます。



未来を担う子どもたちも生き生きと活躍できるまちづくりを

Q 桜の森の今後の利活用は

A まずは森林委員会と協議しながら前向きに取り組む

問

「桜の森」について、桜の開花後は耕作放棄地のようになり、公園とは程遠い現状をどう考えているのか。

林委員会と十分協議の上、当面事業を中断している。現在は桜の生育に影響が出ないよう、年2回程度の除草と薬剤散布など必要最低限の維持管理を行っている。現在の状態では良いとは考えておらず、財源も含め、森林委員会と十分協議をしながら前向きに検討する必要があると考えている。

問

町民からも「桜の森」が聞かれるが、PRは十分だという考えか。

問

第2の桜の名所にするためには、どのように町民の協力を得てやっていくのか。また、説明も必要ではないか。

問

「桜の森」を町内外の人たちの憩いの場とするために、どのような利活用を考えているか。

町長

「桜の森整備構想」を策定したものの、除染のフレコンバッグが留め置きされるなどのため、森

良いとは考えておらず、財源も含め、森林委員会と十分協議をしながら前向きに検討する必要があると考えている。

産業振興課長

現在は整備を中断しており、積極的なPRはしていない。今後の森林委員会などの意見を踏まえ、整備状況に合わせて進めていきたい。

産業振興課長

町の財源も限られ、維持管理には町民の理解と協力が不可欠である。より効果的な活動体制、協力体制の構築も含め、今後検討を加え対応していきたい。

町長

町民の意見も聞きながら、まずは森林委員会と協議し、整備のあり方について検討をいただくことが大切だと思っている。整備にあたっては、道の駅国見「あつかしの郷」や阿津賀志山防

教育次長

小・中学校が現地を確認した上で、学習効果や効率性、安全性の面から整備後の状況を踏まえ、活用できるかを検討していく。

産業振興課長

全体的な構想の再構築も含め、森林委員会などで協議していきたい。また、町内外の皆様に参画してもらえ、方策についても、県内・県外さまざまな事例を調査・研究して進めていく。

壘、下二重堀地区などの整備事業と桜の森を観光的な視点で関連付けられないかと考えている。また、トレッキングコースやスポーツレクリエーションへの利用も望ましいと思うので、実施の時期や財源の問題があるが、今後の道筋をつけていく必要がある。時間をい

ただきながら利活用を十分協議し、前向きに取り組みたい。



渡辺勝弘議員

問

小学生の野外学習の場や中学グコースとして活用できないか。

問

桜の里親プロジェクトとして植樹・整備を進め、新たな観光名所として計画できないか。



桜の森をぜひ町民の憩いの場に